

学校（1月号）

「岸中生、大志を抱け！」

校長 星野 貞邦

明けましておめでとうございます。保護者、地域の皆様におかれましては、ご家族お揃いで健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、昨年中は保護者や地域の皆様から本校に対して温かいご理解とご支援、ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。今年も生徒の夢や目標の実現に向けて、日々の生活の中で「希望の登校・満潤いの活動・満足の下校」を目指し、全教職員一丸となって取組んでいきたいと思っております。

さて、「少年よ、大志を抱け」(Boys, be ambitious)という言葉を知っていることと思います。この言葉は、札幌農学校（現在の北海道大学）の初代教頭として着任したアメリカのマサチューセッツ農科大学学長ウィリアム・スミス・クラーク博士の言葉として有名です。博士が在職した期間は1876年（明治九年）七月からの八ヶ月間と短いものでしたが、彼が伝えたことは、近代的な教育課程や寒冷地である北海道に適する農業技術だけではなく、人間が自分自身の良心に従って、自然と共に生き、人としての在り方を厳しく追求したフロンティアスピリッツであったと言われております。博士が日本を去る時に見送りに来た学生たちに言った言葉が「Boys, be ambitious！少年よ、大志を抱け」だと言われております。この言葉は大変に有名ですが、その後続く言葉があります。「少年よ、大志を抱け。お金のため、または利己的な栄達のためでもなく、あるいは人々が名声と称する空しきもののためにでもない。学問のため、かつ人々（国民）の向上のために大志を持ちなさい、人としてまさにあるべき全てのことを達成するがために大志を抱きなさい。」というものです。「大志」を辞書で引いてみると「心に決めて目指していること、何になろう、何をしようと心に決めていること」とあります。何かをやるようとするには、「人としてまさにあるべき全てのことを達成するがため」の大志がしっかりしていることが大切だと博士は説いているようです。

新年を迎えるにあたって、「岸中生、大志を抱け」という言葉を生徒の皆さんに送ります。中学校時代に将来の夢や希望（目標）を育み、「やるべきことは何か、やるべき時はいつか、やるべき量はどれだけか」を見つけ出し、生徒一人ひとりが自己実現に向かって力一杯頑張りたいと願っています。3年生は今、自分の進路の実現に向けて忙しい日々が続いていますが、今は迷わず、ただひたすらに勉強する時です。それはもちろん目指す高校等に合格するためでもあります。この先、人生の岐路に立つとき「勉強でつけた力」と「将来への目標」が必ず皆さんの力となります。最後まで諦めず頑張りましょう。

最後に、3学期は3ヶ月と短いですが、1年間の総まとめをする大切な期間です。

1・2年生は百人一首大会、さらに1年生は館岩少年自然の教室（スキー）など大きな行事もあります。3年生は中学校生活最後の学期になります。多くの良い思い出を胸に進級・卒業してくれることを願っております。